

## 平成18年度 第3回平田地域協議会 会議記録（抜粋）

- 日 時 平成18年10月18日（水）午後2時00分～5時00分
- 場 所 平田総合支所 大会議室
- 出席委員 13名 1号委員 石黒一喜、齋藤孝雄、丸山賢治、阿部時男、石川敏行、菅原律子  
2号委員 佐藤富雄、佐藤きく子、太田美佐子、小林隆逸  
3号委員 佐藤達也、富樫文雄、佐藤良二
- 欠席委員 2名 1号委員 石黒 均、高橋絹子
- 職 員 平田総合支所長：佐藤富雄、地域振興課長：齋藤啓一、市民福祉課長：石黒吉春、健康福祉主幹：久松勝郎、建設課長：鈴木良寿、産業課長：尾形 力、平田教育振興室長：齋藤善和、地域振興課課長補佐：石川忠春、地域振興主査：佐藤良広、地域振興係長：後藤学、産業課商工観光係長：菅原 淳
- 傍 聴 者 2名

### < 協議会次第 >

#### ●酒田市市民憲章の唱和

1. 開 会
2. 会長あいさつ
3. 平田総合支所長あいさつ
4. 会議録署名委員の選出
5. 協 議
  - (1) 19年度地域づくり予算等について
  - (2) コミュニティ振興組織について
  - (3) 地域振興の課題等について
  - (4) その他
6. 閉 会

- 開会に先立ち、欠席委員の紹介、協議会が成立していることを報告、日程を説明。
- その後、全員で酒田市市民憲章を唱和し、開会する。

1. 開 会 … (進行を務める齋藤地域振興課長が開会する。)

2. 小林隆逸会長あいさつ

秋晴れの良い天気の中、今年度3回目の協議会に出席いただきありがとうございます。

さて、新市の総合計画策定の進捗と併せて、コミュニティ振興会の組織化についても総務部会で主要問題として審議されている。市街地にとっては大きな変動はないが、旧3町はもちろん、旧酒田市の公民館地区でも市職員の公民館主事を引き上げるという大きな問題である。住民にとっては負担が増え、市の財政だけがメリットとなることは避けたいものである。しかし、まちづくりの根幹に関わる問題ではあるが、全般的には市民がそれほどにも感じていないようにも受け止めている。

また、総合計画には、まちづくり意見交換会、50人委員会などから合わせて900もの意見が出されているようだ。当地域協議会としても地域の課題に対しての意見もあると思う。事務方の資料説明を受け、舵取りをしてまいりたいので皆さんからもよろしく願いたい。

3. 佐藤平田総合支所長あいさつ

農作業も一段落したとは言え公私多忙の中出席いただき感謝する。県議会の視察があり30分遅れての時間設定となり申しわけない。

合併して1年、11月1日には記念式典を行なうので、委員各位のご出席を願いたい。

9月議会において、17年度の決算審査、合併の成果や課題について議論された。①合併前の駆け込み事業はなかったか。②住民の不安、不満への対応は。③支所職員の市民への対応、予算権限を言い訳にしてないか。④支所の空きスペースの活用方針は。⑤建設計画の取組み、進捗状況は。などについて議論がなされ、①総合計画に基づいての実施でありそれは無い。②平田地域では特になく推移してきている。③予算執行のシステムは変わったが、言い訳にはしないで市民の要望に真摯に対応している。④総務課内にプロジェクトチームを作って対応している。⑤ほぼ計画通り実施されている。以上の内容で説明された。

さて、今日は地域づくり予算などにご意見をいただきたい。予算編成作業としては19年度予算が合併後実質初めてになる。今までの議論もふまえ、地域の意見をしっかりと反映して行きたい。

また、コミュニティ組織については、総合計画策定総務部会の主要な課題であり、特に旧3町では大きな制度改革である。今後、市からも一定の方針が示されるだろうし、分館長、区長の意見もふまえ、この場でさらに継続して検討いただきたい。

熊の出没情報が絶えない状態であり注意を喚起していきたい。54局管内で10月2日ADSLサービスが開始された。情報格差の一つが解決できたが、引き続き携帯電話不感対策などを関係機関にお願いしている。皆さんの意見で前進していることに感謝申し上げたい。

(以下、会長が会議の議長となって進める。)

#### 4. 会議録署名委員の選出 … (8番 菅原律子 委員を選出)

#### 5. 協議

##### (1) 平成19年度 地域づくり予算等について

(地域振興課長及び地域振興主査より資料等について説明。)

○会長 市全体からすると平田地域という限られた範囲のものではあるが、この地域が埋没しないように、また、住民に密接に関係する部分も多々あると思われるので、各委員の率直な意見をお願いしたい。

○佐藤(き)委員 合併して1年、「どこが良くなったのか」との声を聞く。合併したら旧酒田市の祭りがにぎやかになった、色んな施設が使えるようになったと言われるが、やはり財政が大きな問題で「こういう面が浮いてきた」というところが市民には見えない。市の財政にメリットがあり、それが住民のメリットにもつながっていることをもっと見せてほしい。合併してこんなことも出来るようになったという視点、示せるものが欲しいと思う。

○支所長 もっともなご意見である。ただ、すぐに効果がでるものではなく長期的に見ていただきたい。行革プランでは、類似団体に比較して職員も多いため10年で150人~200人の削減も掲げている。自治体として財政面での体力を備える必要がある。この1年は合併の不安、不満などへの対応でどちらかというと後向きの姿勢があった。福祉サービス、るんるんバスなど旧酒田市の制度が適用になり合併メリット、効果があった面をもっと市民に説明することも必要である。

○地域振興課長 合併効果としては、ファームステイが松山地域や旧酒田市に広がってきたこと。また、酒田祭りだけでなく地域のイベントもにぎやかになってきた。これは広報等で全市にPRが可能となったこともある。

○菅原委員 婦人会で市長との懇談会を行ない、その中で旧3町を巡るツアーが大変好評だと聞いた。平田地域にあるものを掘り起こして市民に呼びかけることは、この地に住む住民として大切なこと。「観光案内人」などの養成は重要である。

○佐藤(良)委員 18年度は酒田市一本のスポーツ事業に参加要請され、地区の行事ができなくなってきた。小学校区での運動会、コミュニティ事業は重要である。旧酒田市でも学区の運動会などは主要事業と捕らえられている。平田地域では逆に地域行事ができなくなった面がある。体育部の方々だけで決めるのは適切ではない。また、地区のまちづくり推進の分館活動補助金は地区のコミュニティ振興に活用して良いのか。

○教育振興室長 平田地域での公民館(分館)交流大会は継続する予定であったが、関係者と話し合いをして市の行事への参加を優先した。

○地域振興課長 地域づくり計画の推進、地域課題の解決のため補助金を活用願いたい。

○佐藤(達)委員 19年度の予算について、市の方針はどうなっているのか。

○地域振興課長 厳しい財政状況ではあるが、地域づくり予算についてもその必要性、成果等

を精一杯示して理解を求めたい。

○富樫委員 改革の時代であるにも関わらず、予算の要望方法、市政の内部の対応状況などは住民には非常にわかりにくい。市の仕組みはどうなっているのか説明を願いたい。

○支所長 地域づくり予算は当協議会の意向をふまえて要求することになっている。昨年は事務的に進めたため、実質今回が初めてとなる。財政とのヒアリング等をふまえて再度当協議会にも状況を報告したい。

○会長 地域振興課長から全て通るとは考えていないという発言もあったが、補足はあるか。

○地域振興課長 枠内予算と枠外予算があり、枠内は一定のシーリングがかけられ、地域づくり予算は枠外であり一事業ずつの査定である。予算確保に向けて努力したい。

○太田委員 田園調布学園のファームステイ事業は何年間の契約なのか。受入れ家庭のご苦労も相当なものではないか。

○商工観光係長 特に期間の契約は行なっていない。毎年話し合っていて決定している。

○地域振興課長 以前、尾花沢市のひとつの地区で15年ほど交流を継続してきたが高齢化等により受入れ出来ず、旧平田町の体験農業の経験などを学校側が評価し決定した経過がある。各家庭のご苦労は理解している。家族の都合により受け入れを休む家庭もあり、交流を大きな視点で見つめながらお互いに無理のないような交流を図っていきたい。

○太田委員 3泊4日は中学生の農村体験として長くないだろうか。また、平田側の受け入れが親切すぎるということはないか。もう少し学校側で受け持つ時間も入れるなど、農家の負担も軽減してはどうか。

○石川委員 実行委員会でも話があった。確かに疲れた人もいただろうが、逆に心地良いものでもあったとも言える。都市と農村の交流は今後益々必要である。この地域に毎年250人が訪れ4年で1,000人、両親も合わせれば3,000人が平田地域を理解してくれたことは重要である。その子が大人になり当地域に再度観光で訪れるなど、酒田市の観光振興などにもつながる可能性があり、意義ある交流事業だと考えている。

○齋藤委員 この交流を長い年月にわたって続けていくとすれば、受入れ側の負担を考慮して2泊3日も検討することは重要と考える。

○地域振興課長 これまでの反省をふまえ実行委員会で検討課題としていただくことにする。

○会長 地域づくり予算については、細部については異論もあるだろうが、合併でがらりと変わったものではない。総じて言えば、過去のもの新たなものへとつなげて行く、その流れを読みとる必要がある。事務局から提出された資料を確認し、19年度に向けた方向は原則としてこの案で了解することよろしいか。

(一同、異議無しの声)

(休憩)

(2) コミュニティ振興組織について

(資料について、地域振興課長、域振興主査が説明し、意見交換に入る。)

○地域振興課長 資料の通り考えられるパターンとして、A（10 コミュニティ）、B（複数コミュニティ）、C（平田ひとつ）の3パターンとその課題を示したが、旧酒田市としての現在の姿ではなく市として目指している方向を意識して検討した。また、現在の平田の10の区域は壊さないことを前提にしたものだ。

○会長 合併で越えなければならないハードルであるが、頭が痛い問題だ。この場で3つから1つを選べるようなものではなく、住民とも議論し、時間をかけて考えていく必要がある。市長もこの問題では住民の意向を受け止めると発言しており、旧3町では松山が動き出しているそうだが平田が一番難しい。委員の意見をいただきたい。

○阿部委員 事務局に確認したいが、区長、公民館長、生産組合長などに対する説明の予定はあるのか。

○地域振興課長 この場で方向付けをいただければ、関係する団体、特に区長、公民館長等に丁寧な説明をしていきたい。

○阿部委員 新たなコミュニティを作ることは市町村合併に似た議論が出る可能性もある。メリット、デメリットはそれぞれの立場で違い、各地域にはそれぞれの地区（自治会）や財産区などもある。平田地域の他との違いは地形にもある。昭和の合併前の昔の3村に戻るようなことだけはあってはならない。どこで、だれが責任を持ってまとめて行くのかが重要である。

○会長 この会での最終集約は大切であり、ある意味まぬがれないものであろう。

○石黒（一）委員 私の地区では地域性から人口、戸数が減り、公民館活動も自治会活動にも支障をきたし始めている。これからはもっと大きい枠組みで進んでいくしかないかと、心配を持っている。自分としても資料を参考に考え方をまとめていきたい。

○丸山委員 田沢地域で体育部員をやった頃、運動会で戸数が減った地区がありチームを合併しようとした時があったが地区の意向は大変難しかった。10分館ある平田地域を4～5に分けるとなると大変なことだろう。コミュニティセンター、中央公民館を利用して2つに分ける程度ではどうか、という意見も多く聞く。旧酒田市でも何十年もかかって今日があるわけで、平田地域で作るにしても1、2年でできあがるものではないだろう。

○齋藤委員 今回の合併に際し、議会で大きな議論となったことに、法による地域協議会の設置と役場を総合支所にすることがあった。その機能を十分なものにすることで、今後のまちづくりに対応できるのではないかと考えているため、私はコミュニティ組織化には疑問を持っている。総合支所の位置づけとも関連があると考えている。公民館活動を中央公民館、コミセンに集約し、自治は39地区で行い支所は残すというソフトランディングとしてはどうか。

○石川委員 前回、パターンを示してほしいと言ったことに早速応えてもらった。ただ、A（10）とC（1）ではどういうことで差が出てくるのかよく分からない。B（複数）は考えるだけでも非常に難しい。平田地域では10分館にこだわってきたが、いっその機会に新しくすることもあっていいだろうし、平田ひとつのCがこれからの時代のあり方とも思える。今は、私としてはCが有効と思える。

○菅原委員 女性の率直な声としては、「山間地域がおかれていくのでは」という不安が大きい。そのためにも平田がひとつになるCが望ましいようだ。山間地域の問題などを考えるとコミセンを拠点にする方法も良いのではないか。

○佐藤（良）委員 この問題の底には住民の経費負担が増となることがある。旧酒田市の平均的なコミュニティ振興会は500戸で1000万円の予算である。旧平田町ではサービスが良く振興会の必要は無かった。コミュニティ組織に1/2の市の活動助成があると言っても、現在以上の住民負担増となり問題である。そのことを誰が住民に説明し納得させるのか。

○会長 資料なりは事務局が責任を持つとしても、誰が説明するかは重要な問題であろう。ただし、もっと方針が定まってからの課題であろう。

○富樫委員 地域コミュニティの論議がされるが、足が地に着いてない感がある。今の時代は、行政が個にどう関わるのが大きな課題であり、コミュニティの役割もそこに大きな関連がある。合併では、地域の融和を重要視してきた経過があるのに、合併により組織化を急ぎ、肝心の地域に混乱を招く必要があるのか。現状では、組織を作って住民の行動がどう変わるかが見えない。

○佐藤（達）委員 少子化などの影響もあり、将来を見据えて考えるなら、平田で1つか2つだろう。コミュニティ組織化が地域のためになるものならば皆で努力していく必要がある。

○太田委員 資料は大変わかりやすく良かった。地域づくりについては私なりに将来に向けて考えてきた。それは、平田は1つということ。より良い交流が持てるし、特に私は、山間地域はとても良いところだと思っているので、そうした人達とまとまって核を作っていくことが将来に向けて大切だと考える。

○佐藤（き）委員 10公民館（分館）は社会教育施設ではあったけれど施設の機能が十分ではなかったことはその通りである。また、地域づくりにこれまで10公民館が果たしてきた役割は大きい。しかし、今後を考えた時コミセン化には賛成である。3つのパターンでどれが良いかは分からないが、はずして良いのは10コミュニティのA、ちょっと無理かと思う。また、1つというのも平田総合支所との関連もあり余りに大きいようにも思える。

○佐藤（富）委員 資料は良かった。私は2つにだけはするべきではないと言いたい。特に、山間地域と平野部の2つに分けることは最悪のパターンである。今まで作ってきた平田としてのまちづくり、今まで培って作り上げてきたものが何だったのかということになる。

○会長 各委員からそれぞれ意見をいただいたが、やはりひとつの案に多数を形成するのは難しい。しかし、その中で共通の課題もあったかと思う。時間を十分とって、ある意味3年の猶予がある訳なので、無理をして住民の意見をまとめるというより、各地区、末端まで十分な説明責任を果たすことが求められる。この件についての協議はこれまでとしたい。

### （3）地域振興の課題等について

（その他、特に議題を限定せず委員からの地域振興に関わる意見をいただく。）

○阿部委員 アイアイひらたが1周年を迎えた訳だが、1年間の経営的な状況などについて委員にも紹介してほしい。

○地域振興課長 第3セクターの決算状況は議会にも報告するし公表される。なお、概要を商工観光係長から紹介する。

○商工観光係長 9月末現在で、入浴者は161,074人で初年度の目標人数を達成した。食材供給施設（食堂）の利用者は39,844人、直売所は32,181人であった。

○佐藤（良）委員 8月30日の総合計画策定の意見交換会に参加したが、非常に抽象的な議論に終始した感がある。計画の仕上げに向け、再度、意見交換を行なう予定とのことだが、何を積み上げようとしているのか見えない。合併時の建設計画がどう反映されているのか、平田地域の課題はどこで審議されているのか不安である。

○地域振興課長 特にテーマは設けず、広くさまざまな意見をいただきたいという主旨の会であった。後日、各会場のまとめ等はお知らせする。今後、計画づくりが煮詰まってきた段階、2月頃に再度意見をいただく予定で、市が目指していることを分かっていただけのも思っている。

○佐藤（良）委員 10年計画はもちろんだが、建設計画の中の3か年主要事業がどうなっていくのかについて、きっちりとした住民への説明を求めたい。

○会長 六ヶ村排水路整備、地域開発、仁助新田地区整備など町全体でまとめたものが、どう位置づけられるかは重要である。審議会の資料を見ると平田地域の要望は少ない感がある。

○支所長 意見交換会では具体的な箇所の話とはしなかったが、支所としては、特に中山間地域振興対策の部分を強化するように実務的に詰めている。それらを踏まえ10年の基本構想の案が示されるので委員からも補強していただきたい。六ヶ村排水路整備、小林温泉整備事業は具現化に向けた検討が進められており時期をとらえて内容を説明したい。

○会長 佐藤（良）委員は総合計画が決まった後の報告を求めているのではなく、その策定過程での意向の反映を心配しているのだろう。支所職員の関わり方はどうなっているのか。

○地域振興課長 事務的にはワーキング、担当課長会議、部長会議と議論を積み上げている。なお、総合計画には具体的な路線名等は掲載されない。それらは実施計画等で位置づけされると思われるので理解をいただきたい。

○会長 総合計画関連の資料は後日いただくこととして、本日の協議は以上で閉会する。

#### （4）その他

（健康福祉主幹から、平田診療所の患者数等について状況説明する。）

#### 6. 閉 会 … （進行の地域振興課長が閉会する。）